

We are delighted to send you our newsletters.

森口クリニック 健康新聞

地域の皆様に 森口クリニック からのお便りをお届けします。

第2号は、こんな内容でお送りします！

- 自己紹介（第1号の続き）
- 健康を気遣う言葉達…偉人のことば…
- お役立ち！ ワンポイント豆知識（**予防接種**） / 編集後記

vol. 2



御入学・御進学おめでとうございます。

2008年4月に誕生した森口クリニックも早いもので4年生となりました。

オープニングスタッフに加え、その後も元気で陽気な受付スタッフ・看護師が次々と仲間入りし、ますます明るいクリニックとなりました。

開院当時には喘息発作で毎日辛そうに吸入をしていた子供達が、体が大きくなるに伴い発作が少なくなったり、双子用のバギーに乗っていてとても小さかった双子ちゃんが走り回るようになって、挨拶ができるようになったりと、子供達の成長に驚き・喜んでいきます。

今後も地域の患者さんの健康維持の一助となれますよう、スタッフ一同、力を合わせて行きたいと考えています。どうぞ宜しくお願いします。

自己紹介（第1号の続き）

大阪から徳島へ・・・初めての一人暮らし - - - またまた車に轢かれる

昭和63年の4月から徳島市内で一人暮らしを始めることとなりました。ちょうど瀬戸大橋が開通した年で明石海峡大橋はまだなく、今はなき徳島阪神フェリーで大阪南港から徳島港まで3時間40分かけての引越。親戚がいる訳でなく、土地勘もなくとても弱りました。掃除・洗濯・買い物・食事等々.....親の有難みが身にしみる毎日。一人暮らしが始まって1カ月が経った頃からアルバイトを開始、ある日自転車でアルバイト先へ向かう途中で車に轢かれ（撥ね飛ばされ←痛かった）、そのまま近くの病院へ。右足首骨折、自転車 - 大破、メガネ - 破損、服はボロボロ。車椅子を乗りこなしていた？浪人2年目に引き続き今回は松葉杖で通学する羽目に.....痛みで1週間で5kg痩せました。

医学部の学生生活・・・最初の2年間

予備校生活を2年も過ごした自分としては、もう浪人（- 留年）は懲り懲りでしたので入学直

後から妙に張り切っていたのですが、直ちに内科学・小児科学・救急医学等の現場に必要な授業がある訳ではなく「あれっ??」と拍子抜けしたことを覚えています。医学部は入学から卒業まで6年あり、最初の2年間と後半の4年間で学ぶことが随分異なっていました。予備校の2年間と同じくこの2年間もあっという間に通り過ぎ、大阪弁が抜けることなく一人暮らしと徳島の街・阿波弁にすっかり慣れた頃には後半の4年に突入です。

徳島の街・・・とても住みやすい街でした

皆さんは徳島にどんなイメージをお持ちですか？スダチ？大塚製薬？後藤田さん？鳴門の渦潮？板東英二さん？実は自分も現地で生活を始めるまでは「阿波踊り」しか知りませんでした。20歳から一人暮らしを始めた自分にとって、徳島は出身地の大阪・現在住んでいる西宮と同じくとても住みよく、安い家賃・物価、美味しい食べ物、海と山が近く、大自然が隣人のような生活でした。大阪・西宮の便利さと比べると物足りなく感じることもありましたが、この物足りなさも今となっては懐かしく貴重な経験です。四国88カ所巡礼の第一番札所の霊山寺が県内にあるからでしょうか、徳島の人たちはとても親切で「おもてなし」の心に溢れていたように思います。どのアルバイト先でもおばちゃんが一人分多めに料理を作ってくれて、美味しく御馳走になっていました。

医学部の学生生活・・・後半の4年間

入学後最初の2年間は留年することなく無事終了。後半4年間は本での勉強だけではなく大学の附属病院で入院患者さん・外来部門の協力の上で実際に病棟・外来を回って勉強をさせてもらいますので、病院の近くまで引越しです。引越業者に依頼せずに、仲間でチームを組んで夜中の引越しでした。この4年間に学ぶことは膨大で、今のようにインターネットも携帯電話もない時代でしたので、アルバイト代はほとんど医学書に姿を変えていました。また、あまり知られていないことで(自分も知らなかった)、自分の希望進路-専門以外の科目も授業-試験が山ほどあり、これはもともと「お勉強」が苦手な自分にはまたまた困った大事態でしたが、「入院していた2浪生の頃よりはマシやな」とここでもオメデタイ発想転換で乗り切れたようです。病棟実習の頃、まだ医師免許もない一医学生に「応援しとるけん、がんばりよ～」と声をかけてくれた患者さんの一言は今でも優しく温かく残っています。

医師国家試験

これは入学試験とは異なり定員がない試験です。しかしながら不合格だと研修医にもなれず、そうすると当然仕事がなく⇒収入もなく⇒生活ができない＝無職 \(\odot\odot)/!!、というストレスの大きな試験ですので、同級生は皆真剣です。私は大学入試で2回「サクラ咲かず」を経験しましたので、気合を入れ過ぎたせいか不規則な生活となり、御無沙汰の十二指腸潰瘍の痛みで悩まされて大変ながらも「最後まで諦めないぞ」の信念のおかげか、今回は大学入試の時と違って予備校のお世話にならずに済みました。 \(\wedge\wedge)/

卒業後の進路・・・初心に戻り - - - ⇒研修医の生活へ

多くの同級生と同じく、病棟実習の頃から卒業後の進路-専門の方向を考えるようになりまし

た。「多くの患者さんの力になりたい」という気持ちが最優先でしたので、医師を志した初心に素直に従うこととしました。

手先が不器用なこともあって内科系・小児科系へ、中でも実際の現場では呼吸器の病気で困っている患者さんが、子供達も大人でも一番多いので、この方向で経験を積んで行こうと決心して内科系 - 呼吸器系で研修開始、今となっては正解だったと思っています

実際開院してみると、子供達も大人も風邪症状・喘息・アレルギーの患者さんが大変多いことに驚かされます。

呼吸器の病気は循環器の病気とは違って、直ちに生命に関わることは少ないものの「セキで寝れない」、「なかなか熱が下がらない」、「セキで仕事にならない」という症状は確実に生活の質を落としますし、患者さんだけでなく御家族にも感染させてしまうというやっかいなものです。

地域のクリニックの責任として、目の前の困っている患者さんの治療だけではなく、それ以上に病気を広げないことも大切だ、と痛感しています。

実は森ロクリニックは内科と呼吸器科だけではなく循環器科も標榜しています。その詳しい理由はまた後日のクリニック健康新聞に書きますが、一番の理由は地味ながら「多くの患者さんの力になりたい」というものです。

長々となりましたので、今号での自己紹介はこの辺りまでとさせていただきます。

という訳で、学生⇒研修医⇒いくつかの医療機関勤務⇒ドイツ留学の後⇒卒業後14年経って開院⇒現在、地域の患者さんとお付き合いさせていただいています。

卒業後開業までの日々は長いような・あっという間の時間でした。その中でも研修医時代の生活にはほろ苦い多くの思い出がありますので、記憶に残る患者さんのエピソードも合わせて研修医1年目以降のお話は次回3号に続きます。

「Listen to your patient, he is telling you the diagnosis.」

(:患者さんの声に耳を傾けてごらん下さい、貴方に診断を教えてくださいよ)

(William Osler:1849-1919)

カナダの内科医、ウィリアム・オスラーの言葉。

どんなに医療機器がよくなっても、医学が進歩しても、

いいお薬が開発されても、最終的には患者さん（+御家族）と

医師（+医療機関：クリニックスタッフ）との信頼関係に勝るものはない、
という意味だと解釈しています。

人間は「雑種」の生物ですし、同じ病気・治療でも経過は異なりますので、
この言葉は的を得ていると思います。

森ロクリニックには大病院のように高度な医療機器はありませんが、
患者さんとの信頼関係を日々地道に積み重ねて行くことが何よりも大切だ
と考えています。

この言葉は若いドクター達にも伝えて行きたいものです。

健康を気遣う言葉たち
…偉人のことば…

お役立ち！ ワンポイント豆知識

健康メモ……………「予防接種」

皆さんは「予防接種」という言葉から何を連想されますか？

「痛い」、「怖い」、「高い」、「面倒だな」 - - - - -

あまりいいイメージを持たれていない方もおられると思いますし、現場でそのような声を聞くこともあります。

予防接種 - ワクチンは人類が感染症との闘いの中で手に入れた武器の一つで、私たちの先人達が苦勞して残してくれた財産です。

無駄な医療費・辛い闘病時間を費やすことがないように、

正しく安全にワクチン接種を行えるよう、森口クリニックとしても工夫して行きたいと考えています。

不安な点・ご質問等あればお電話・診察室でお問い合わせ下さい

予防接種に来院される場合は母子手帳をお忘れなく

編集後記

桜咲く心地よい季節となりました。

来院患者さんの中にはこの時期、転勤・引越される方も

おられます。転出された後でも患者さんの記憶に残るような

医療機関になればとても嬉しく思います。

今後とも宜しく願い申し上げます。

森口孝一



【発行・編集】

森口クリニック

TEL 0798-57-3792

ホームページ <http://moriguchi-clinic.jp>